

台風14号による被害を受けられました皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。
現在会員登録数3,911人さま。次号は10月20日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

- 《1》ふくろう庵ときどき
- 《2》この本読んだ？
- 《3》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する
- 《4》子どもの本の珠玉のことば
- 《5》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■-----
【1】お知らせ

● 「第39回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#39boshu

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第36号の原稿を募集しています。応募締切は10月31日（月）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 寄付金を募集しています

※詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html

※Syncable → <https://syncable.biz/associate/19800701/>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■-----
【2】コラム

《1》ふくろう庵ときどき 3

〈当財団特別顧問の三宅興子さんは現在、ご自宅で療養中です。みなさまに現状をお伝えしたいと原稿を預かりましたので掲載させていただきます。〉

病状が進んで酸素吸入をするために、現在は部屋に酸素の出る機械を設置してもらって、鼻から長い管をつけて、「長いしっぽ」と名付けて、家中を動いています。「長いしっぽ」さんのおかげで、ずっと低迷していた酸素濃度を94に保つことができ呼吸が楽に出来るようになりました。

思い起こせば、75歳を過ぎてから、次から次へと病気がみつき、病室ですべて、「大腿骨骨折」という大怪我をして人工の骨を入れる手術まで受けてしまいました。よく寝た切りにならず回復できたものと、手術をして下さった医師とリハビリの大切さを身につけて退院できるようにして下さった先生には感謝です。手術をして下さった先生とは、人間の骨の美しさを語ることができ、「骨」への関心が広がりました。

それぞれの状況で出会った先生方は、プロですが、ヘルパーさんたちも負けていません。仕事の単位が、「30分」「1時間」「90分」と30分刻みで、別に急いでいるようではなく的確に仕事をされます。自分がやっていた時はあまり時間を気にすることなくただやらせていたと思います。入院の現場には、ドクター以外にいろいろのプロがいて、病院によっては「先輩支配」のところがありましたが、患者としてはよいと思いませんでした。

その上、用心に用心を重ねていたにもかかわらず、コロナにもかかってしまいました。コロナ専用病棟は、個室でしたが掃除もなく誰にもふれず、12日間は食事が運ばれるだけで、「修行僧」として過ごしました。院内コンビニで限られた品物は買えましたが、リストに載っているのはごく一部で、着の身着のままの状況でしたので、大型のウェットティッシュで身体をふくのが唯一の「清潔」でした。

これらの経験をし、やっと自宅に戻って「長いしっぽ」と過ごす毎日です。

* 不定期連載の予定です。

《2》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『笑いの力、言葉の力 ～井上ひさしのバトンを受け継ぐ～』 渡邊文幸/著
世界をカエル 10代からの羅針盤 理論社 2022年7月 対象年齢：小学校高学年以上

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

あらすじ：劇作家・小説家の井上ひさしの評伝。父親が思想統制のために投獄され、出獄するものの、次男のひさしが5歳のときに死んでしまう。ユニークな母は、次々と仕事をかえながら、3人の男児を育てる。井上は、戦後、カナダ人の修道士たちが運営する児童養護施設で育つ経験をし、本を読み続け、映画を見続け、脚本や作品を書き続ける人生を送る。その一生を井上の作品とともに紹介している。

T：中学生ぐらいの読者が井上ひさしについて知る本としてとてもわかりやすいと思って読みました。

Y：第一章は「ぼくの原点」です。ユニークなお母さんは、父を亡くしたひさしに対して「この本の山を父さんと思いなさい」(p.22)と言います。小説家

志望の父は、町の図書館よりたくさんの本を持っていました。

T：このエピソードは参考文献にも挙げられている『ひさし伝』（笹沢信/著 新潮社 2012年）などにも出てきますが、この『笑いの力、言葉の力』は、語り方と語りの仕組みが優れていると思います。

放送作家になった井上ひさしの青年期までを時系列でたどりつつ、その中で、後に書かれた井上の脚本や小説、エッセイなどの文章を引き込んで紹介するという手法になっています。

Y：それによって、井上の作品を読んでみたい、もっと知りたい、私も思いました。

T：同時に、もし、中学生が読むとしたら、今、自分が生きて経験していることは、後から意味があるんだろうな。自分の将来にどんな影響を及ぼすのかなと想像力を広げることができると思います。

Y：なるほど。私が興味深かったのは、これまでも言われていることではありませんが、やはり、井上における笑いの意味、言葉へのこだわり、そして、戦争（10歳で敗戦を迎えるという経験）ということでした。そして、児童養護施設で過ごしたというのは印象に残るエピソードだと思いました。もちろん、カゲの部分など、書かれていないこともあります。

T：伝記というより、青年期までの井上の生い立ちをたどりながら、井上の作品紹介をした本であり、そこから発展して、宮沢賢治や小林多喜二なども紹介している読書案内とも言えそうです。

複数の中学3年生の国語の教科書に井上の短編小説「握手」が掲載されています。学校司書さんや先生方は、機会をとらえて、この本を紹介するとともに、井上の著作や賢治などの関連本を含めて中学生に伝えてもらえればいいなと思いました。

《3》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第85回「バキチの仕事」

賢治が描いた「やむにやまれない反感」

「あゝそうですか、バキチをご存じなんですか。」

「知ってますとも、知ってますよ。」

「(中略) 小学校で一緒ですか、中学校で一緒ですか。いゝやあいつは中学校など入りやしない。やっぱり小学校ですか。」

「兵隊で一緒です。」

こうした書き出しの「バキチの仕事」(未完)は、短い間に職を転々とし、いずれも長続きしないバキチのことを、彼を知る二人の男性が対話風に語る物語です。

小学校を出たあと、いくつかの職を経て兵隊になったバキチは一等卒止まり。除隊後はついこの間まで馬喰をやっていたが、(今ごろは何をしてゐるか)わかりません。兵隊前には、飴屋、土方、大工をしましたが、すぐにやめてしまいます。

語り手の男性は、(わっしもずゐぶん目をかけました。でもどうしてもだめなんです)と言います。また、バキチが兵隊後に就いた巡査では不祥事や失態を重ね、上司である署長から(きさまもだめなやつだ、よくよくだめなやつなんだ。もう少し見所があると思ったのに)と罵られて免官になったことが語られます。

バキチは署の小使室からたたき出され、行くあてなく厩にもぐり込み、そこで馬とオペラ風の掛け合いを始めます。本作は未完で、物語はバキチが馬とやりとりをしているところへ語り手の男性が通りかかり、あまりみっともないことをするなと声をかけたところで中断しています。

学校教育を受け、徴兵検査に合格したことで、バキチはひとまず国家による「一人前」という資格を付与されます。が、教育や徴兵がバキチの将来の役には立っていないようです。他方、村落共同体からは〈だめなやつ〉と烙印を押されて疎外され、生業を持たないことで旧来の共同体が求める「一人前」ともほど遠い地平にいるように見えます。

ところで、バキチ（馬吉？）は馬と心を通わせることができる極めてユニークな存在であり、決して道徳的とは言えませんが、豊かな心性を有するのが彼の人柄のようです。未完ゆえ、馬喰となった後の展開やバキチの造型、また作品の方向性を知ることはできませんが、バキチの精神的豊饒さや、異なるモノと交渉・交歓する「資格」が描かれた意味は決して小さくないと思われます。東北という地方において、脈々と受け継がれてきた豊かな心性が「近代」という名の下に意味を失い、虐げられていったことを意味するのかもしれませんが。当時、おそらく多数存在したであろうバキチ的人物を哀憫の念を持って描いたところに、賢治の国家に対する地方からの「やむにやまれない反感」を感じます。（ペ吉）

（本文の引用は、ちくま文庫版『宮沢賢治全集』6によりました。）

《4》子どもの本の珠玉のこぼれ 39

「でっかい たまごだ！」と、てつたくんがいました。
「うわあっ、きれいな たがもだ！」と、みつやくんがいました。
みると、おおきな きのしたに、おおきな おおきな たまごが、ころがっています。

（『もりのへなそうる』 わたなべしげお/作 やまわきゆりこ/絵 福音館書店 1971年12月初版、2022年2月94刷から引用 p.24-25）

子どもの時に、妹といっしょに寝る前に母に読んでもらった一冊です。みつやが「たまご」を「たがも」とことごとく間違えるのが楽しく、何度も読んでもらいました。覚えているので、ここで「たがも」が出てくると思うと、笑う準備をし、妹と二人で声をあげて笑い、それを見て母が、「そんなにおもしろい？」という顔で私たちを見ていたのを思い出します。

この作品は、幼稚園に通うてつたと3歳の弟のみつやくんが、森へ行って大きなしましまの卵を見つけるところから話が始まります（「でっかい たがも」）。二人が次に森へ行くと「へなそうる」と名乗る大きなどうぶつに出会います。へなそうるは、二人を背中に乗せて、シーソーをしたり、滑り台になってくれたりします（「かくれんぼ」）。最後の章では、3人で川へかにをとりに行きます（「かにとり」）。

てつたとみつやの関係を自分と妹の関係に重ねて楽しみました。また、へな

そうるが、みつやと同じように言葉を言い間違えることで、3人の中では、「たがも」の方が多数。力関係が変化するおもしろさもあります。へなそうるが、みつや以上に怖がり、くいしんぼうなことで、みつやが優越感を抱き、てつたと二人でへなそうるをおもしろがっている様子も共感していました。

読みなおし、50年以上たった今も、子どもだけの空想の世界、遊びの世界の大切さが実感できる作品だと思いました。(Y)

《5》 行って来ました！

西宮市大谷記念美術館で開催中の「2022 イタリアボローニャ国際絵本原画展」に行ってきました。この展覧会では、子どもの本専門の国際見本市「ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェア」で毎年行われる絵本原画コンクールに入選した、日本人4人を含む29カ国78人の入選作と、特別展示として、35歳以下の入選者の中から選ばれるSM出版賞を受賞したサラ・マツエッティ（2019年受賞）とチュオ・ペイシン（2021年受賞）の作品が展示されています。

入賞作品の5点1組のイラストを、お話を想像しながら見ていきました。今回のコンクールは、2020年、2021年に続きオンラインで行われ、過去最多の92カ国3,873組からの応募があったそうです。森や空など自然が美しいもの、環境問題を扱ったもの、虫や動物が出てくるものなどさまざまなテーマの作品があり、デジタルを使いながらも手描きのダイナミックさを活かした作品が目につきました。ロシアやウクライナからの作品もありました。ウクライナのガンナ・イヴァネンコ「わたしの町」を見て、戦争の前の街並みなのかなと身につまされる思いがしました。

私が好きだったのは、サナ・ハビービー＝ロード（イラン）「ひとつの桃、1000の桃」という、エコプリント（植物の葉や花の形や色を直接布地の上に写し取る染色方法）と刺繍で描かれた作品です。サマド・ベヘランギーという作家の、二人の少年が桃の種を地主の庭の隅に植えるお話で、この作品が絵本になったら読んでみたいと思いました。他に、アリス・ウールガリアン（フランス）「ピンクちゃん」という、線画でところどころ彩色されたコマ割り風の作品や、マーライ・マリアン（ハンガリー）「ヤサイトクダモノ」という、擬人化された野菜や果物がいろいろな動きをしている作品がおもしろいと思いました。

今回の審査は絵本作家の降矢奈々さんも参加されていました。会場で上映されていた審査の様子や入選作家へのインタビュー動画はYouTubeで見ることができます。(K)

西宮市大谷記念美術館 <http://otanimuseum.jp/bologna2022/>

審査員と入選作家へのインタビュー (YouTube)

https://www.youtube.com/watch?v=NPe703Tg_Jw

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介

● 第151回 日本児童文学学会 関西例会

講演会「【第3世代戦争児童文学】の戦略：「たずねびと」(朽木祥 光村5年)

教材研究ノート」 講師：住田勝（大阪教育大学） ほか、研究発表 2 本
日 時：9 月 24 日（土）13：30～16：50
会 場：大阪府立中央図書館 2 階多目的室＋オンライン
対 象：どなたでも 参加費：無料
主 催：日本児童文学学会 関西例会 共 催：大阪国際児童文学振興財団
申 込：<https://kansaireikai151.peatix.com> から

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

■ ----- ■
今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『笑いの力、言葉の力』をプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.145 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は10月11日（火）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |
— | — | — | — | — | — | — | — | — | — |

台風によって当財団の「おはなしモノレール」が中止になってしまいました。楽しみにして下さっていたみなさま、大阪モノレール様をはじめ、ご支援くださっていた多くのみなさま、申し訳ありません。来年こそはぜひ実施したいと思っております。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
